＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

アステリスク
（教員養成大学における
セクシュアリティに関する
意識についての実践研究）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

※本報告書では、規範的男性と規範的女性に分類されない性の人を指して「LGBT」という語を使用しています。

第１章　プロジェクトの概要など

１．アステリスク（教員養成大学におけるセクシュアリティに関する意識についての実践研究）

LGBT とされる人は 8.9%の割合でいると言われており、1 クラスに 2～3 人いることになる。LGBT であることを理由にして学校でいじめ被害にあう児童生徒が多い。この実態を受け、文部科学省は 2016 年に「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」を公表、2017 年 3 月の「いじめの防止等のための基本的な方針」改訂で、性的マイノリティの生徒への配慮を初めて盛り込んだ。

一方で教員対象の LGBT に関する研修は不十分であること、教員が出身養成機関で LGBT について学んだことのある教員は 1 割にも満たないことが明らかになっている。本学ではセクシュアリティに関する授業が複数開講されているものの、LGBT に関する学生の認識が十分とはいえない現状がある。

知らず知らずのうちに目の前の子どもや同僚の教職員を傷つけてしまわないためには、LGBT が不可視化されないような学校づくりと、必ず身近にいるという教員の認識が必要である。

そこで、教員志望の学生が多い本学で、LGBT について考えるきっかけを作るための取組を行った。

２．代表者および構成員

・代表者

辻奈由巳　学校教育専攻　M２

・構成員

稲岡美和　国語領域　２回生

高桑詩乃　教職実践専攻　M２

三上純　　教科教育専攻　M２

３．助言教員

井谷惠子先生（保健体育学科）

第２章　内容や実施経過、成果

１．図書館パネル展示

「知ることからはじめよう　～LGBT パネル展～」

（１）期間、場所

平成 30 年 6 月 23 日～7 月 20 日

図書館 1 F 展示室

（２）展示内容

・団体紹介

・教職員向け LGBT パンフレット

http://niji-yodogawa.jp/教職員向け lgbt ハンドブック/

・LGBT 年表、地図

（3）広報活動

ポスターを作成し、図書館等に貼って宣伝した。

（4）成果と課題

（感想）

後述のアンケートで展示の感想をいただいた。

- 現在、教員採用試験の勉強を進めており LGBT についても学習をしました。LGBT 年表を見ると歴史的な経緯が理解でき、とても有意義でした。ぜひこの企画を他の場でも行ってほしいと思います。
- 教員採用試験で LGBTQ のことについて学ぶ機会もあり企画展に足を運びました。実際の該当者の声や、年表でわかりやすくまとめられていてよく理解できました。
- どの展示も非常にわかりやすく、今まで名前を知っているだけであった LGBT についての基本知識が身についただけでなく、より詳しく知りたいと思うようになりました。

（企画した成果と課題）

期間中終日展示していたため、訪問人数は把握できなかったが、資料館への通り道という展示場所の利点が幸いし、多くの方の目にふれる機会はあったと推測される。しかし、用意した資料が少なかったことにより、寂しい印象も感じられた。今後は展示物を増やし、より多くの情報を伝えられるよう工夫する必要がある。

2．学生対象アンケート

（1） 目的

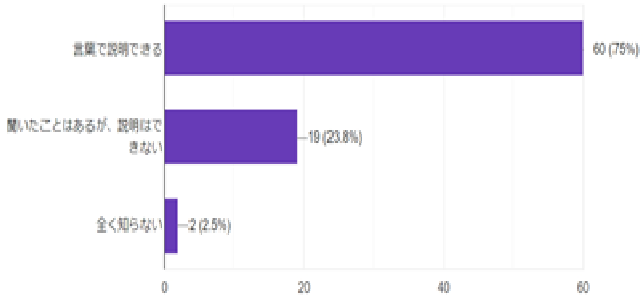
本学学生の LGBT への意識の実態を把握する。

（2） 方法、期間

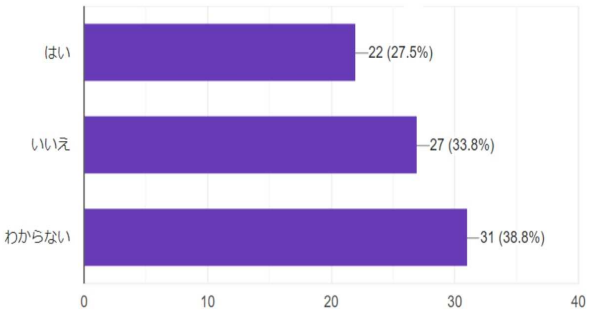
2018 年 6 月から 11 月にかけて、アンケートのページを作成し、QR コードを読み込んでもらいオンライン上で 80 名から回答を得た。

（3） 結果

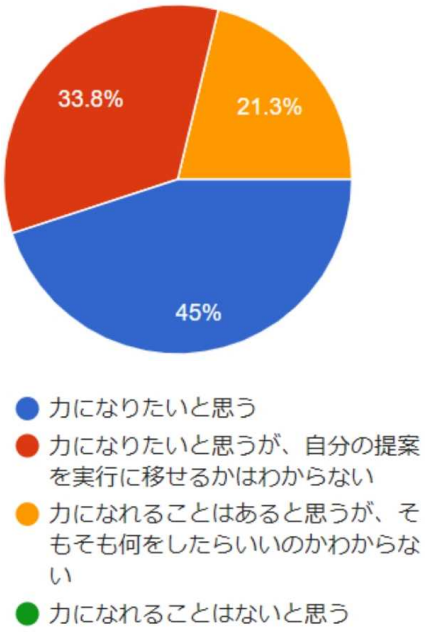
Q1.あなたは、「性的マイノリティ」や「LGBT」という言葉を知っていますか？



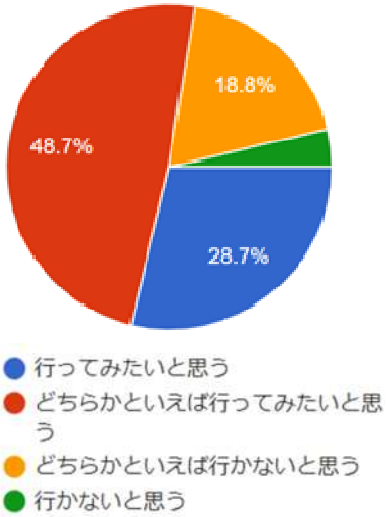
Q2.あなたの身近に、LGBT にあてはまる方はいますか？



Q3.ある児童、生徒が自分のセクシュアリティによっておこる出来事について悩んでいます。
教師、周りの大人としてどのように感じますか？



Q4. LGBT について学ぶイベントなどがあれば、行ってみたいと思いますか？



Q5.LGBT に関して、参加してみたいイベントや企画があれば教えてください

●LGBT の人の講演会

●どんなことをしたら力になれるのか、何をされたら嫌なのかなどの話を聞きたい

●本人の声（悩みや周りにして欲しいこと）を知りたい

●自分が性的マイノリティとなる社会を疑似体験する。それで気付けることもあるかと。

●具体的な対応策を考える機会

Q6.その他、意見や感想などあればご自由にお書きください。

●きっと、私が気付けていないだけで、私の周りにも本当は性に関することで悩んでいる(他の人には言えない)という方がいると思います。公言するかどうかは本当にその方の意思次第だとは思いますが、私に何かできることがあれば嬉しいと思います。逆に、性のことに限らず、人にはそれぞれ他の人とは違う悩みがあると思うので、お互い違う悩みを持っていると共通認識を持ち合った上で、良好な関係を築くことができると良いなと思います。

●私は大学の講義で LGBT を知りました。異性同士で恋愛をする、結婚をすることが当たり前だと感じていましたが、そうではない様々な愛の形が今後さらに増えていくと思います。そういった人達が生きやすい社会を作るためにイベントを通じてもっと理解を深めたいと思います。

●もっと LGBT に関心を持つ人が増えるような取り組みが必要だと思う。

●実際に悩んでいる人の思いが知りたい。事実を知ることが性的マイノリティなどへの差別をなくす１つの手だと思います。

●近年は LGBT や性的マイノリティが注目されるようになったから私のように関心を持つ人が増えているのだろうけど、注目される前は本当に知っている人もいなく、オカマなど性を軽んじて言われて苦しんでいる人が更に多かったのだろうと思うと、自分ももっとはやく知識を得て知るべきだったと反省したくなった。でもそれ自身知らない人もいるわけで、もっと認知が広がればいいなと思った。

●同性結婚が認められればいいと思う。

（4）考察、感想

アンケート回答者の LGBT への関心の高さがみられた。この理由として、大学の講義で LGBT に関する内容に触れる学生が多いことが考えられる。一方で、自分のセクシュアリティについて悩んでいる児童・生徒に対して力になりたいとは思うが、何ができるか、また実行に移せるかはわからないという意見があった。本アンケートで実態をつかんだことで、学内全体への周知として、プロジェクトの方向性を再度考えることができた。

３．レインボーフェスタ見学

（1）日時、場所

平成 30 年 10 月 6 日～7 日

11:00～16:00　(開場 10:00)

扇町公園

（2）レインボーフェスタについて

毎年 10 月に行われる関西最大の LGBT イベントで、大学のサークルや NPO 法人や企業が出展し、日本中から個性豊かな参加者が集う。

レインボーフェスタ 2018 テーマ
（以下、ホームページより引用）

> 本年度のテーマは
> 「一期一会～今に生きる、今を生きる。～」
> 今、ここにある瞬間を、もう二度とこないこの瞬間を生きていく。
> レインボーフェスタ！が始まってからのこの 5 年は、例えば性の多様性とともに生きてゆく人にとっては、とても多くの変化に恵まれたときであったと思います。
> 社会という大きなものが変わりゆくさまを、ありありと感じたときであったと思います。
> そんな時代をこれからも生きてゆくこと、そんな時代に今生きていること。
> 一期一会のこの瞬間を踏みしめて、前へ進んでいきたい、
> そんな思いをこの言葉にしました。

（3）内容と感想

2 日間にかけて行われるフェスタの初日を見学した。はるな愛や ET - KING といった著名なキャストも登場し、フェスタを盛り上げていた。

ブースでは LGBT に関する資料やグッズの配布、販売が行われていた。協賛企業も多く、世間での認知の広まりが感じられた。その一方で教育現場での認知の浅さをより一層感じた。教育現場で広く周知していくためにまずは自分たち自身が知っていく必要性を感じた。

昨年度同様、会場全体の雰囲気が明るく、笑顔があふれる空間だった。性の多様性をひとりひとりが表現し、自分やまわりの人を大切にすることで、この会場のように人々の笑顔を自然に引き出すような社会を実現することができるのではないかと考える。

4．レインボーカフェ

（1）日時、場所

平成 30 年 11 月 18 日（藤陵祭 3 日目）
終日
C 棟ロビー

（2）企画概要

- コーヒー、お茶、ジュースの販売
- LGBT に関する資料、動画、書籍の展示
- アンケート調査結果報告
- レインボーフェスタ見学報告
- クリアファイル配布

（3）成果

【企画について】

本学学生だけでなく、未就学児～高校生、本学卒業生、一般の方、学生の保護者も展示に足を運んでくださった。展示内容の感想用紙を作成し、回答協力の御礼品としてクリアファイルを配布した。

（参加者感想）

1.いろんな家族の形があってもええねんなぁって思った。（その他）

2.LGBT はもっと広く知れわたって、全員が知らなければならないことなのに学校の先生が軽く考え、悩みを抱えている子に対して、適切な対応ができていないことが衝撃でした。また、学校の授業（保健）などで LGBT について子どもに教える、広く理解を深める機会をもっと設けるべきだと思った。子どものうちから LGBT の考えにふれないと大人になってからでは遅いと思った。（所属不明）

3.大学の講義で何度か“LGBT”について考える機会がありましたが、改めて「性」の考え方の多様性が世界中に広まれば良いなと思いました。（大学生）

4.LGBT について深く知りませんでしたが、人という存在を全て認めるという意味でもこういう概念があるのかなと思いました。（大学生）

5.教育現場では、性の多様性について学習しても、これほど深い部分まで掘り下げて考えさせたりする機会は少ないと思うので、今回の企画で調べた内容を学校でどのように活かせるかが必要になると感じた。（本学 5 回生）

6.自分らしく生きるということを色々な人に伝えてほしいというのと、自分を大切にするということが大切していくということを広めてほしいと思いました。映像を見たことで改めて「LGBT」への考えが深まりました。（本学 3 回生）

7.LGBT の問題は自分にとって遠いもので、身近に感じることがなく、ある意味偏見を持っていたが、自分から関わろうとすることで、よく知ることができることを知った。（本学 2 回生）

8.LGBT のことをまず「知る」というのは大切。とくに教員養成系大学生は絶対知るべきなので、このような活動は大切にしないといけないし、実際にこの活動をしていることに意義があると感じた。発信し続けることをやめてはいけないと思った。（本学 4 回生）

9.LGBT のことは何となく分かっているつもりだった。展示でレインボーフェスタの存在を知ったり、LGBT 書籍もこの展示から知ることができた。いつか LGBT という言葉すら使わなくてもいいくらい多様性が広がる社会になればいいと思いました。（本学 M1 ）

10.絵本などで LGBT のことを描くことで、子どもにも簡単にそのことを理解することができ、LGBT に対する偏見がなくなると思った。（本学 1 回生）

11.絵本などもあって小さい子にも分かりやすいかなと思いました。（本学 2 回生）

12.興味深く拝見しました。当事者の方の体験談などが聞けると、より身近なこととして知ることができるのではないかと思います。（本学の教職員）

13.メディア（お笑い番組）で性的マイノリティを笑いものにするような風潮が何のギモンも持たずに放送されていた。それを見て育っているので理解が低いと思う言動に多々出会います（先日の議員の発言などのように）。世間の理解を深め誰もが生きづらさをなるべくもたずに過ごせるように今後も取り組んでいくことは大切だと思います。絵本もいくつかあったので先入観のない子どものうちに正しい理解をすることも大事だと思いました。（学生の保護者）

14.LGBT の人も楽しく幸せに偏見等にさらされず、自分自身を否定せず幸せに暮らせたらそれで良いと思います。「みんなちがってみんないい」展示勉強になりました。（保護者）

15.すべての人が自分らしく安心して生きられる世界になるといいなと思います。（保護者）

16.性的マイノリティや LGBT など話題になっていますが、子どもたちに対して男らしいや女らしいという言葉を大人が安易にしていることが減っているような気がしません。大人が変わっていかないとこども達がかわいそうだと思います。（地域住民）

17.頭では差別はいけないと分かっていても、実際目の当たりにしたときに引いたりおっと思ってしまうのが正直なところです。でも個性や人の価値観が多様化になっているのもあり、寛大な気持ち？捉え方？で一緒に違和感なくいられるようになればいいな…。ウミウシうらやましいです（笑）（本学卒業生）

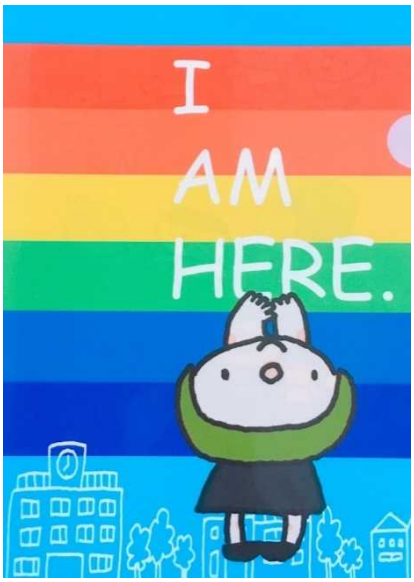
18.中学校教員をしています。現場でも LGBT の対応に頭を悩ますこともしばしば…
まだまだ個に応じた対応は遅れています。万人がエガオの学校。すてきですね。（小中高教職員）

19.今の時代、「LGBT」の方がテレビなどのメディアでよくとりあげられているのを見るため、多くの方に広がっていると考えていました。でも実際、自分の周りに「LGBT」の方がいたらどのように接したらよいか分からないと思うし、本人にしか分からない悩みなども深いのだと思うと、まだまだ世の中の理解は足りていないのだと思います。このような活動はとても意味があると思うので、どんどん広めていってほしいと思います。（小中高教職員）

【購入書籍について】

今年度、e-project 予算内で LGBT に関する書籍を絵本や一般書を中心に 10 冊購入した。これから勉強したいと思っている学生に読みやすいものを選んだ。また子ども用の本もあるため、学校段階に関わらず、学級文庫や図書室に配置できるものが多くある。活動終了後は附属図書館に配架される。

【クリアファイルについて】



（本デザインの無断転写および掲載はお断りします。）

ippo.（田中一歩）さん

「じぶん」を生きたいという思いから表現活動をはじめる。現在は、イラストやデザインなどを手掛ける。また、セクシュアルマイノリティとされる子どもたち、そしてすべての子どもたちに「じぶん、まる！」を届けるため、にじいろ i-Ru(アイル)を立ち上げ活動している。

ファイルには ippo さんからのメッセージを添えて、配布した。

（メッセージ）

セクシュアルマイノリティとされる子どもたちを含め、すべての子どもたちに「じぶん、まる！」を届ける活動のほか、dekotoboko.（でことぼこ）として創作活動もおこなっています。
100 人いれば 100 通りの性があると言われるように性は多様です。
わたしも、そしてあなたもすべての人が「多様な性」を生きるひとりなのです。
ひとりひとりがじぶんの性を生きることができる社会であったらいいなぁと思います。それは学校も同じです。
誰もが自分の性を生きることができる学校とは、どんな風に自分の性について思っていても
、誰が誰を好きになっても、好きにならなくても、どんな表現でも、否定されたり排除されない学校です。すべての子どもたちに、そしてすべての教職員にとってそんな学校になればいいなぁ。そしてわたしも、あなたも、学校を社会をつくっているひとりであることを忘れてはいけないなぁと思っています。
そんな思いを込めて、このクリアファイルをデザインしました。
わたしはここにいる！誰一人いないことにしないそんな学校に。そんな社会に。

５．上映会

（１）日時、場所

平成 30 年 12 月 12 日
１部 13：30～15：00
２部 15：30～17：00
Ｂ１講義室

（2）上映作品について

「カランコエの花」

「うちのクラスにもいるんじゃないか？」

とある高校２年生のクラス。

ある日唐突に『LGBT について』の授業が行われた 。

しかし他のクラスではその授業は行われておらず、 生徒たちに疑念が生じる。

「うちのクラスに LGBT の人がいるんじゃないか？」生徒らの日常に波紋が広がっていき…思春期ならではの心の葛藤が起こした行動とは…？

https://kalanchoe-no-hana.com/

上映会では映画を鑑賞した後、参加者がグループになり感想を交流した。

（3）広報活動

学内一斉メールを２回送った。藤陵祭や SDGs フォーラム、パネル展、学内の他の LGBT 講演会で宣伝をした。

（4）参加者

１部 25 名、２部９名　計 34 名

（内訳）

学部生　12 名

大学院生　12 名

専攻科学生　5 名

大学教員　3 名

その他　2 名

（5）参加者へのアンケート

【映画の感想】

1.LGBT の子がおかれる環境によってもその子の立ち居振舞が変わるなと感じました。（1 回生）

2.正直、小・中・高と LGBT についてしっかり学んだ記憶がなく、（学びはしたと思うのですが）今回、メールをいただいて、この機会に…と思い来ました。映画を見て、教師も LGBT について授業を扱うのは大切だと思いますが、その方法や伝え方も考える必要があり、難しいなと感じました。逆に取り上げることが、映画のような「このクラスにいるのでは？」という雰囲気になることもあるので、クラスや生徒の実態を踏まえたうえですることが本当に大切だと思いました。「LGBT だから」ではなく「その人自身」と接していけるようにすることが理想で、自分自身これからしっかり考えていけるようにしたいと思いました。（M１）

3.教師として、どのように指導すべきか考えさせられました。教師が指導しなければならないと特別視しすぎることで、逆に普通ではないと言ってしまうことになると思いました。（M2）

4.「LGBT」と取り上げられるが、逆に良くないも

のも生み出すのでは。日本は「受け入れなければ」とかどこか LGBT に対して何か見えない壁がある気がした。(2 回生)
5.映画のあとの交流の時間がとっても必要で大切だと感じました。話すことで深まることがたくさんありました。(中略) オープンにすることが必要な一方で敏感な物でもあって…難しいなと思いましたが、幸せな性を皆が生きていければいいなと思います。(M2)
6.(登場人物が) レズビアンを否定されることは、本人にとっては、人間を否定されると同じだと思いました。このような考えは、今までなかったので、とても考えさせられました。(M1)
7.学校という場が性的アイデンティティを表明するのに危険な場であると改めて認識しました。(中略) 子どもの受け取り方、伝わり方が様々な分、教材として扱う難しさがこのテーマだったのかな、と思います。(その他)

【もっと知りたい内容や今後についてのご意見】
1.今回のような映画をもっと見てみたいと思った。(M2)
2.LGBT については、自身で興味があったり経験したことがない限り知識を得る機会が少なすぎるように感じます。多くの人の目につく場所に掲示物を貼ったり、イベントのお知らせをさらに行っていただけると嬉しいです。(1 回生)
3.実際 LGBT の方は何を理解して、何を知って、何をそっとしてほしいのか知りたい。(2 回生)

（6）成果

当日参加の方が多く、特に 1 部は部屋が満員になるほどであった。昨年度と比べて、学部生の参加が多かった印象を受けた。学校が舞台の映画ということで教員志望学生として興味がある作品だったのかもしれない。

今年は去年からの変更点として、映画を観るだけではなく、参加者同士の感想交流の時間を設けた。グループワークを通して各々の作品への理解や LGBT への認識が深まっているように思われた。

また、参加者にはクリアファイルを配布した。

第３章　SDGs プロジェクトとしての取り組み

e-project の SDGs 枠で活動した。学内の SDGs イベントにも参加し、活動の周知や LGBT 啓発を図った。

1．藤陵祭スタンプラリー
SDGs 関連団体のスタンプラリーに参加した。レインボーカフェでは 5（ジェンダー平等を実現しよう）、10（人や国の不平等をなくそう）のシールを配布した。

2．SDGs フォーラム
11 月 28 日に行われたフォーラムで、活動報告を行った。

学生に直接活動を紹介できる貴重な機会であった。ここで宣伝したことも、上映会の参加者が多かった理由のひとつかもしれないと考えている。

3．図書館展示
アステリスクとしてスペースをいただき、展示した。展示内容は団体紹介、活動内容、アンケート調査結果であり、フォーラムに来ることができなかった人にも私たちの活動を紹介することができた。

SDGs 枠の活動の感想

当初、5（ジェンダー平等を実現しよう）、10（人や国の不平等をなくそう）が活動と関連するゴールだと考えていたが、4（質の高い教育をみんなに）、16（平和と公正をすべての人に）も私たちの活動理念とリンクすると考え、11 月のフォーラムでは 17 個のうち 4 個の目標を掲げて発表した。しかしながらそれだけではなく、例えばトランスジェンダーがトイレを安心して使えるように工夫することは広い意味で 6（安全な水とトイレを世界中に）も関係してくるし、LGBT であることを理由に就職で不利になったり、受けられないサービスがあったり、いじめを受けたりすることもあり、その防止を考えると 1（貧困をなくそう）、3（すべての人に健康と福祉を）も同時に実現目標に入ってくる。活動を継続することで SDGs への理解が深まり、私たちにできることを考えやすくなったと感じる。

第４章　まとめと反省、今後の展望など

１．まとめと反省

（１）活動の知名度

昨年度に引き続いた活動のため、レインボーカフェや上映会では昨年も参加したとの声が複数あった。また、イベントを複数開催したことで認知度を高めることができた。今年は加えて SDGs のイベントでも活動紹介ができたため、知名度向上につながったと考えられる。活動を継続する重要性が分かった。

（２）ともに活動することへのハードルの高さ

学生が「LGBT について知りたい」というニーズをもっていることが分かったので、活動を継続する意義は大きい。しかし、メンバーとして活動することは知識のなさから抵抗があるようにも感じられる。そこで、メンバー学習会にイベント参加者を招待し、学び続ける環境づくりが必要だと思う。

２．今後の展望

学内のジェンダーや性の多様性、また広く人権に関する授業や団体、イベントと連携し、多くの人が本プロジェクトの活動に関われる仕組みをつくることが、教員志望学生が LGBT について考えるきっかけづくりのために必要だと考える。本プロジェクトは「知る」「伝える」「広げる」をキーワードにしているが、自分たちが勉強する「知る」の部分はなかなか周りからい可視化されにくい。そうした側面が結果としてメンバーとして活動するには知識がないから不安であるという意見につながるのではないかと考える。学内に LGBT について考える輪をつくり、その輪を「広げる」ために、「知る」機会となる学習会を展開していきたい。そしてみんなで一緒に考えながら活動を作っていきたい。